

## 研究発表もうしこみフォーム

氏名：烏茹嘎（ウルガ）

氏名のローマ字表記：WURUGA

所属：総合研究大学院大学 文化科学研究科 地域文化学専攻 博士後期課程

専門分野：文化人類学

発表のタイトル：都市に移住したモンゴル族の牧民のオンラインコミュニティに着目して  
ー内モンゴル自治区バヤンノール市ウラド中旗の牧民を中心に

発表要旨（746字）：

本発表の目的は、中国の生態保護政策により都市に移住した内モンゴル自治区の牧民たちが微信(ウェシイン、英語:WECHAT)という SNS で紡がれたオンラインコミュニティの実態を明らかにすることである。

中国政府は2000年より「西部大開発」という国家的なプロジェクトを実施し、そのなかで西部地域の生態環境の悪化・砂漠化への対策は中心的な課題として取り組まれてきた。さらに、内モンゴル自治区は生態保護政策を実施する重点地域となり、2003年から「退牧還草」政策が行われてきた。そして、「退牧還草」の結果、たくさんの牧民が政府の生態保護政策によって都市に移住した。

また、インターネットやスマートフォンの急激な普及と共に、文化人類学者のフィールドワークの舞台は「オフライン」から「オンライン」まで広がってきた。近年では、オンラインチャット、オンラインコミュニティなどのオンライン空間に対しての研究は多面的に展開されている。それらの研究には、オンラインコミュニティでのつながりが、人々の社会的相互作用、コミュニケーションのあり方、エスニシティの構築に大きな影響を与えていると指摘されている。

こうした研究背景をふまえ、本発表では、都市に移住したモンゴル族の牧民たちが作った一つのオンライングループに注目してみる。具体的には、このオンライングループの結成要因や形成過程、グループ内の対話内容、グループ内のモンゴル族と漢族との民族間関係について分析した結果を発表する。また、以上の分析結果を通じて、生態保護政策により都市に移住した牧民たちが、このオンライン空間でどのように会話をしたり、どのような人間関係を築いたり、どのように自分たちの牧民としてのアイデンティティを維持しているかについて考察する。